# 岡崎嘉平太記念館だより

Vol.16

## 嘉平太氏が出会った人々

### 龔 徳柏（きょう とくはく）氏（二回目）

このたびは、岡崎嘉平太氏が日中友好を志すきっかけになった人物をご紹介します。

龔徳柏氏は、中国のジャーナリスト、反日活動家。湖南高等工業学校に入学後、官費留学生として、一九一五（大正四）年第一高等学校特設予科に入学、翌年本科に進学した（嘉平太氏も大正五年 第一高等学校に入学）。在学中は、反日活動に参加、一九一七（大正六）年退学した。一八九一（明治二十四）年生まれ、一九八〇（昭和五十五）年没。

■第一高等学校、略称一高（いちこう）。東京都文京区にあった。旧制高等学校のナンバー校（一高～八高）の一つ。男子の高等教育機関で、全寮制が原則だった。

（高等学校の頃の交遊について）高等学校のときに感じたのは、大事なのは友人だということです。友人と心が溶け合っていれば困ったときに一生助け合える。（中略）寄宿舎に入ってみると、同じ独法の部屋が三つぐらいあるんですよ。同じ部屋で違った地方から出て来たのと寝ながら話をするようなことがあって、あるときには留学生も僕らの部屋へ泊めてやったことがあった。そこでも友達を作ることを大分心掛けたんです。

今でもそういう気持ちでやっているから、中国の人と交わるときでも、仲のいいのが出来ると生涯友情を保ち続けていかれるんです。

私のクラスに龔徳柏という一人の中国の留学生がおりました。体も大きくて年も私より上ですが、その当時は日本が青島（チンタオ）を占領して、二十一カ条を無理遣り突き付けていたときですから、誰も中国の話をしないんですよ。私はその同級の留学生が、一人でぼんやり放課時間なんか窓にもたれているのはかわいそうだから話し掛けると、向こうも喜んで話をしてくれました。その話の中で、中国が外国から苛められてひどい目に遭っているということを知りました。日本も苛めている方なんですが、日本の悪口は無論言わないんですけれども、段々話してくれました。（中略）

その龔徳柏が、あるとき「岡崎、ちょっとグランドへ出て来い」と言うんです。グランドに出るというのは大体鉄拳制裁をやるときの言葉なんです。何を怒っているのかなと思いながらグランドへ行きましたら、「岡崎、私はもう中国へ帰る」と言う。「そんな君、学校だけは済ませて帰ったらいいじゃないか」と言うと、「いや、こんな嫌な日本だと知っていたら来るんじゃあなかった。私は貧乏だったから中国から近い日本へ来たんだけれど、もう一日も居たくない」と言って、それでさよならして別れたんです。それは大正六年の終わり頃だったか、そのときは私もちょっと寂しかったですね。彼は私以外殆ど話し掛ける者はいないんですからね。二人は大変仲良くなっていたんです。

（『岡崎嘉平太伝』平成四年 ぎょうせい発行より）



## 秋山清水（せいすい）展　肖像画の大家をしのぶ

吉備中央町出身の肖像画家 秋山清水先生の油絵、水彩画、画材などの愛用品を集めた展覧会が、主催吉備中央町教育委員会、共催岡崎嘉平太記念館で開催しました。会場は、岡崎嘉平太記念館研究室、会期は、11月7日(月)～11月20日(日)。

秋山先生は、第29代内閣総理大臣 犬養毅氏、ノーベル平和賞受賞の佐藤栄作氏など多くの著名な人物の肖像画を遺されたことで知られています。また、秋山先生は、岡崎嘉平太先生のことを大変敬愛しておられ、当記念館に常設展示している岡崎先生の肖像画は、88歳の米寿のお祝いに描かれたもので、岡崎先生と対話しながら、何度も 何度も筆を重ねられたそうです。

秋山清水展の様子

会期中、1，882名の来館者で大変賑わいました。

## 岡崎嘉平太記念館こぼれ話 ～ 岡崎ゆみさんと太賀さんのこと ～

「岡崎嘉平太記念館開館10周年記念 信と愛の名曲コンサート」では、嘉平太先生のご子息 彬様、お孫さん、曾孫さんと三世代が揃ってくださいました

岡崎ゆみさんは、嘉平太さんのお孫さんです。

著書に「ピアノが好きでたまらなかった」、「両親が純粋に音楽を楽しむ」とある幼少期を経て、努力を重ねられ、ピアニストとして演奏活動をするようになられました。そして、妊婦や胎児、乳幼児に向けたコンサートを先駆けられ、お客様を楽しませる工夫を重ねておられます。その体験を通じてのご考察や、ご自身の妊娠、出産、育児をとおして、小さな頃からクラッシックに親しむことが、人生をより豊かにすると実感されたそうです。ゆみさんの著書『クラッシックを聴くとよい子が育つ』には、クラッシック音楽への賛辞だけではなく、体験に基づいた音楽の楽しみ方や子育ての秘訣が綴られていました。ゆみさんの人々の幸せを願う深い気持ちに心動かされ、純粋に音楽を楽しむ環境で過ごすこと、子どもを育てることの大切さを感じました。

太賀さんは、ゆみさんのご子息で、優しい性格で、音楽が大好きだそうです。現在はボーカリストとしてひろく活躍されています。開館10周年記念名曲コンサートでは、堂々としたチャーミングな歌唱で会場を魅了されました。今後の活躍が大いに期待されるところです。

（『クラッシックを 聴くとよい子が育つ』株式会社アートディズ発行参考）

編集・発行：岡崎嘉平太記念館
〒716-1241 加賀郡吉備中央町吉川4860-6 きびプラザ内
TEL 0866-56-9033　FAX 0866-56-9066
ホームページ http://www.okazaki-kaheita.jp
Eメール okmh@okazaki-kaheita.jp
2012年1月

# 岡崎嘉平太記念館は、開館10周年を迎えました

## 設立の経緯

昭和60(1985)年　88歳　岡山県名誉県民の称号を受ける
平成元(1989)年　92歳　逝去
平成 5(1993)年　遺品約7000点 岡山県郷土文化財団へ寄贈
平成 8(1996)年　岡崎嘉平太記念館建設委員設置
岡崎嘉平太先生顕彰記念館建設募金を行う
平成12(2000)年　7月4日「岡崎嘉平太記念館の基本設計に対する意見を聞く会」を開催、吉備高原都市「きびプラザ」内に記念館設立の案が出される
12月18日岡山県が吉備高原都市「きびプラザ」内に、岡崎嘉平太記念館を暫定的に開館することを明らかにした
平成13(2001)年　4月1日岡崎嘉平太記念館開設準備室開設(岡山市、岡山県郷土文化財団内)
6月1日岡崎嘉平太記念館開設準備室が吉備中央町へ移動
6月14日遺品等を現地へ移送
8月23日岡崎嘉平太記念館 開館

## 開館10周年記念行事を開催

### 記念式典

平成23(2011)年9月4日(日)に当館で行いました。地元 野山の会と、吉備中央町に高橋岡山県環境文化部長から知事感謝状が贈呈されました。

右から重森計己吉備中央町長、高橋邦彰岡山県環境文化部長、宮崎勇岡崎嘉平太国際奨学財団理事長、柴田一岡山県郷土文化財団理事長、石井寿富吉備中央町議会議長代理

### 特別展「岡崎嘉平太記念館十年の歩み」

式典に続き、来賓の方々にテープカットで祝っていただき、開館以来の講演会や企画展などの主な活動をまとめたパネルや、ANA(株)乗員組合から贈られた機長服など、貴重な遺品を含め100点を展示した特別展を開催しました(10月23日(日)まで)。

嘉平太氏が、総社尋常高等小学校の時に総代として卒業生へ贈った「祝辞」は、ご親族から新たに寄贈されたもので、初公開しました。嘉平太氏は、大和尋常小学校でも、「成績優秀にて郡長から表彰された」との記録が残っています。この「祝辞」は、100年前に氏自身が書いたもので、良筆ぶりからも、氏の秀逸さが伝わりました。

また、嘉平太氏は、ANA(株)社長の時に、乗員組合から機長服を贈られ、大切にされていました。嘉平太氏は、飛行機を降りる際、最後に必ずコックピットのドアを開け「どうもありがとう」と声をかけられたそうです。また、県立岡山中学に入った頃、『日本少年』という少年雑誌に飛行機のことがよく書いてあり、とても憧れていたと述べられています。

特別展の様子、左側は機長服、右側は祝辞

TIGER 氏

岡崎 ゆみ 氏

指揮 菊池 東 氏

### 信と愛の心を育てる 名曲コンサート

平成23(2011)年9月4日(日)に、吉備中央町ロマン高原かよう総合会館で行いました。

岡崎嘉平太氏は、こどもたちの清らかな幸せをいつも願っておられました。そして「信はたていと愛はよこ糸 織り成せ人の世を美しく」の言葉を遺されたとおり、正しいと信じた考えは貫き通され、あたたかな心で人と接するお人柄でした。嘉平太氏の「信と愛」の生き方をじっくりと感じてほしいと願い、開催しました。

嘉平太氏の孫で、ピアニストの岡崎ゆみさんは、妊婦や乳幼児のためのコンサートを熱心に続けてこられました。そして、経験を通して、クラッシックを聴くとよい子が育つと実感しておられます。地元岡山のオーケストラ 倉敷管弦楽団との共演で、チャイコフスキー、ショパン、ラフマニノフらの作曲したクラッシックの名曲が力強く演奏されました。

続いて、嘉平太氏の曾孫(ひまご)で、ボーカリストの太賀(たいが)(歌手名ＴＩＧＥＲ)さんは、嘉平太氏がお好きだった「蘇州夜曲」を、吉備中央町出身の音大生鶴旨桃子さんのピアノ伴奏にのせて、堂々とした歌声で披露してくださいました。

また、ゆみさんはピアノソロで、ドビュッシー作曲「夢」、ショパン作曲「華麗なる大円舞曲」など4曲を美しくご披露くださいました。

赤ちゃんから大人まで700人のお客様がお越しになり、迫力ある美しい音色とゆみさんによる嘉平太氏との思い出トークをじっくりとお楽しみいただきました。

また、吉備高原学園高校の生徒さんがボランティアとして、さわやかで、心のこもった接客のお手伝いをしてくださいました。

## 「岡崎嘉平太がめざした世界平和への道を考える」第10回講演会の開催

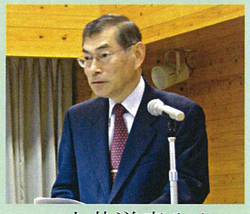
平成23年12月4日(日)に90人の参加をえて開催しました。講師には元ＡＮＡ(株)機長の鈴木將弘氏と、(社)吉備の里 理事長の土井道彦氏をお招きしました。

鈴木氏は、嘉平太氏と9回訪中されており、氏への敬愛の念があふれ、お二人の親密さがうかがえるエピソードをいくつも話してくださいました。土井氏は、平成4年に岡山県が出版した『岡崎嘉平太伝』の編纂にたずさわられ、嘉平太氏が亡くなられる1ヶ月前までインタビューにあたられ、編纂のいきさつやエピソードを話してくださいました。

お二人の講師の嘉平太氏との交流で学ばれた大変興味深いお話は、今後、冊子にまとめ頒布します。

主催者である、高橋岡山県環境文化部部長は、「嘉平太先生の志を伝え、私たちの生活や行動にいかすことが、国難といわれる現在の必ずや指針となると思う」と述べました。

鈴木將弘先生


土井道彦先生